

都心部の環境やエネルギーに関する計画

市では、都心部を環境やエネルギーの視点からリニューアルするための指針となる都心エネルギーマスタープランと、都心エネルギーアクションプランを定めました。これらの計画では、3つの基本方針と2012年と比較した目標を定め、それに基づいた具体的な取り組みを進めています。



◀プランは市役所5階都心まちづくり課で閲覧できるほか、ホームページでも公開中

都心エネルギープラン 検索

2つの都心エネルギープランの概要

基本方針	低炭素 脱温暖化を 先導する都心	人や企業に 安全安心を 提供できる都心	快適・健康 人々が快適で 健康的に 過ごせる都心
2050年の 目標	建物から排出される二酸化炭素を80%削減	都心部に分散して設置した発電設備で電力の30%以上を供給	歩きやすさを向上させ、心地よく快適に過ごせる場所を2倍に増やす
具体的な 取り組み	省エネビルへの誘導、コージェネレーション*と地域熱供給の普及、再生可能エネルギーの利用	災害時でも電力と熱の供給を継続できるコージェネレーション*や非常用発電機の導入拡大	地下通路や空中歩廊の整備、低炭素な熱源によるロードヒーティングの拡大など

*発電時に発生する熱も有効活用する発電の仕組み

世界の環境問題への取り組み

2050年に向けた温室効果ガスの排出量削減の枠組みである「パリ協定」や、持続可能で多様性のある社会の実現を目指す2030年までの開発目標「SDGs」などへの取り組みが広がる国際社会。市も、こうした世界共通の課題に率先して取り組んでいきます。

●SDGsが定める目標を表すアイコンの一部



◀SDGsでは、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的な社会など、持続可能な開発のための目標を全17項目定めている

低炭素の分野で先進的な国

デンマークと連携してより環境に優しい都市へ

2050年までに化石燃料に頼らない社会を世界で初めて実現するという目標を掲げるデンマーク。その首都・コペンハーゲンの取り組みを参考に、市は2つの都心エネルギープランを策定しました。2月には、技術や経験などを今後さらに共有していくための協定を締結。低炭素分野で世界をリードしていく都市を目指します。



◀協定の締結とともに、国際政策の外部有識者・山中博子氏（写真左）立ち合いのもと、デンマーク大使・ピーター・タクソ・イェンセン氏（写真中央）と秋元市長が環境施策について意見交換

広告



環境に優しい

札幌の都心へ

北海道・札幌の中心地として、魅力の向上につながる先進的な取り組みが求められる都心部。ここでは、市が進める二酸化炭素の排出量が少ない低炭素で持続可能なまちづくりや、都心の将来像などを紹介します。

詳細 都心まちづくり課 ☎211-2692

都心の現状と将来像

現状

1972年の札幌オリンピックの時期に開発が進んだ札幌の都心部。50年近く経った今、多くの建物が更新時期を迎えています。



将来像

建物の更新時期に合わせ、市は民間企業と共に、二酸化炭素の排出量が特に多い都心部を、低炭素で持続可能な都心へとつくり変えていきます。



都心で進む 環境に優しく快適に過ごせるまちづくり

市内のさまざまな場所で進む再開発（5ページでも紹介）。民間投資を呼び込み、まちの活性化につなげています。

特に注目！ 創世スクエア周辺のエネルギーのネットワーク

中央区北1西1

特に注目！ 北ガスアリーナ札幌46周辺の冬でも歩きやすい歩行空間

中央区北4東6

2018年10月にオープンした創世スクエアの地下にエネルギーセンターを設置。発電した電力を創世スクエアに供給しているほか、発生した熱で作った温水などを周辺地区で活用する地域熱供給のネットワークを新たに構築しています。



◀▲創世スクエア内の市民交流プラザ（写真左）と周辺地区に温水などを送る熱導管（写真上）



◀▲北ガスアリーナ札幌46（写真左）とその周辺をつなぐ空中歩廊（写真上）

昨年4月、中央体育館を移転する形で開館した北ガスアリーナ札幌46。再開発の一環として、空中歩廊を整備しました。周辺の大規模商業施設とも接続しており、年中快適に移動できます。